



6年生道徳の授業

昨日13日(月)の5時間目に、6年2組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「ロレンゾの友達」というお話でした。

あらすじ： アンドレ、サバイユ、ニコライの3人は、故郷を離れていた幼なじみのロレンゾから手紙をもらう。そこには「20年ぶりの再会を楽しみにしている」と書いてあった。だが、3人はロレンゾに会社の金を持ち逃げしたとの疑いがかけられていることを知り、どのように対応すればいいのかわからない。ロレンゾとの再会の日、3人は、ロレンゾが来るのを待ちながら話し合った。アンドレは「お金を持たせて逃がす」、サバイユは「自首をすすめるが、本人が納得していなければ逃がす」、ニコライは「自首をすすめ、付きそうが、本人が納得しなければ警察に知らせる」とそれぞれ意見を述べたが、ロレンゾはその日姿を見せなかった。翌朝、町の警察署から連絡を受けた3人が警察署に向かうと、そこにはロレンゾがいた。結局、ロレンゾは無実であり、人違いで警察署に連れてこられただけだった。3人はロレンゾの無実と再会を喜んだ。その後4人は町の酒場へと向かい、思い出話に花を咲かせた。だが、事前に3人で話し合ったことは口にできなかった。そして酒場を出た後、もしロレンゾが本当に罪を犯していたら、自分は友人としてどうすべきだったのかを改めて考え始めた。

今回の授業のめあては、「『ほんとうの友達』とは」というものです。担任から3人の対応として、どの立場がロレンゾのことを考えているかを子供たちに問いました。すると、アンドレ派の子供たちは「真実が分かるまでは逃がす。警察に捕まるとまた会えなくなるので寂しい。」と答え、サバイユ派の子供たちは「持ち逃げはいけなことだけど、強引に自首させても反省しない。」と答え、ニコライ派の子供たちは「罪は時間が経つほど重くなる。友達が苦しむのは嫌。」などそれぞれの立場について考えを出し合いました。そして、ロレンゾに対して3人が抱く同じ思いは、「友達のことを考えていること。」「正しい道へもっていこうとしている。」などの思いについても整理していくことで、「本当の友達」について、これまでの自分自身を振り返りながら、「僕は今まで友達に注意したことあって、友達から注意もされてきたから、そうならないように、互いに正しいことは言い合って本当の友達になりたいです。」「今までの自分は友達が(悪いことを)『一緒にやろうぜ』と言われたら一緒にやってきたけど、本当の友達はそういうことを言われてもやらないことが本当の友達関係って思いました。」「仲の良い友達には悪いことは悪いって断言できなかったけど、この授業を通して、仲の良い友達だからこそ、悪いって言って信頼関係を深めたいと思いました。」「僕は人によって、違うことを言うてしまうことがあったので、きつい思いをしている人のことを広い心で受け止めたいと思いました。」と自分事として「本当の友達」について考え、新たな気づきを得ている姿がありました。



今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、外部から招いた講師の方と、本校職員で授業研究会を行いました。参観者一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。講師の先生も「帯西のように学校全体で道徳教育に取り組むことが素晴らしい。そして、子供たちが自分の声で語る授業の雰囲気よかった」と述べられていました。

今回も、子供たちと職員とで帯西グリーンを醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。今回の授業は6年部でも共通実践を行い、6年生全員の心が育ちました。6年2組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

今回も、子供たちと職員とで帯西グリーンを醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。今回の授業は6年部でも共通実践を行い、6年生全員の心が育ちました。6年2組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。